

企業集団の状況

当グループは、当社、子会社70社及び関連会社12社で構成されています。

当グループは、「高分子事業」、「環境・機能材事業」、「繊維事業」、「生活健康・その他事業」の4分野にわたり事業活動を営んでおり、その主な事業内容と、当グループを構成している主要各社の当該事業に係る位置づけは、概ね次のとおりとなっています。

高分子事業： 当社は、プラスチックフィルム、樹脂・樹脂製品、スパンボンド等の製造・販売を行っています。

国内では、連結子会社である寺田紡績(株)はプラスチック・化成品の加工・販売、ユニチカケミカル(株)はボパールの製造・販売、持分法適用関連会社である信越酢酸ビニル(株)は酢酸ビニルモノマーの製造・販売をそれぞれ行っています。

また、海外では、連結子会社であるエンブレム・アジア(インドネシア)、持分法適用関連会社であるエンブレム・ヨーロッパ(イタリア)はフィルムの製造・販売、同じく持分法適用関連会社であるタスコ(タイ)は、スパンボンドの製造・販売をそれぞれ行っています。

環境・機能材事業： 当社は、環境事業としてのエンジニアリング事業(水処理設備・焼却炉・大気汚染防止設備等)及び機能材事業(活性炭繊維、アモルファス金属繊維、フェノール系熱硬化性樹脂「ユニベックス」)を行っています。

連結子会社である(株)ユニチカ環境技術センターは環境分析測定事業、ユニチカグラスファイバー(株)はガラス繊維製品の製造・販売、ユニチカスパークライト(株)は反射材の製造・販売、(株)ユニオンはガラスビーズの製造・販売をそれぞれ行っています。

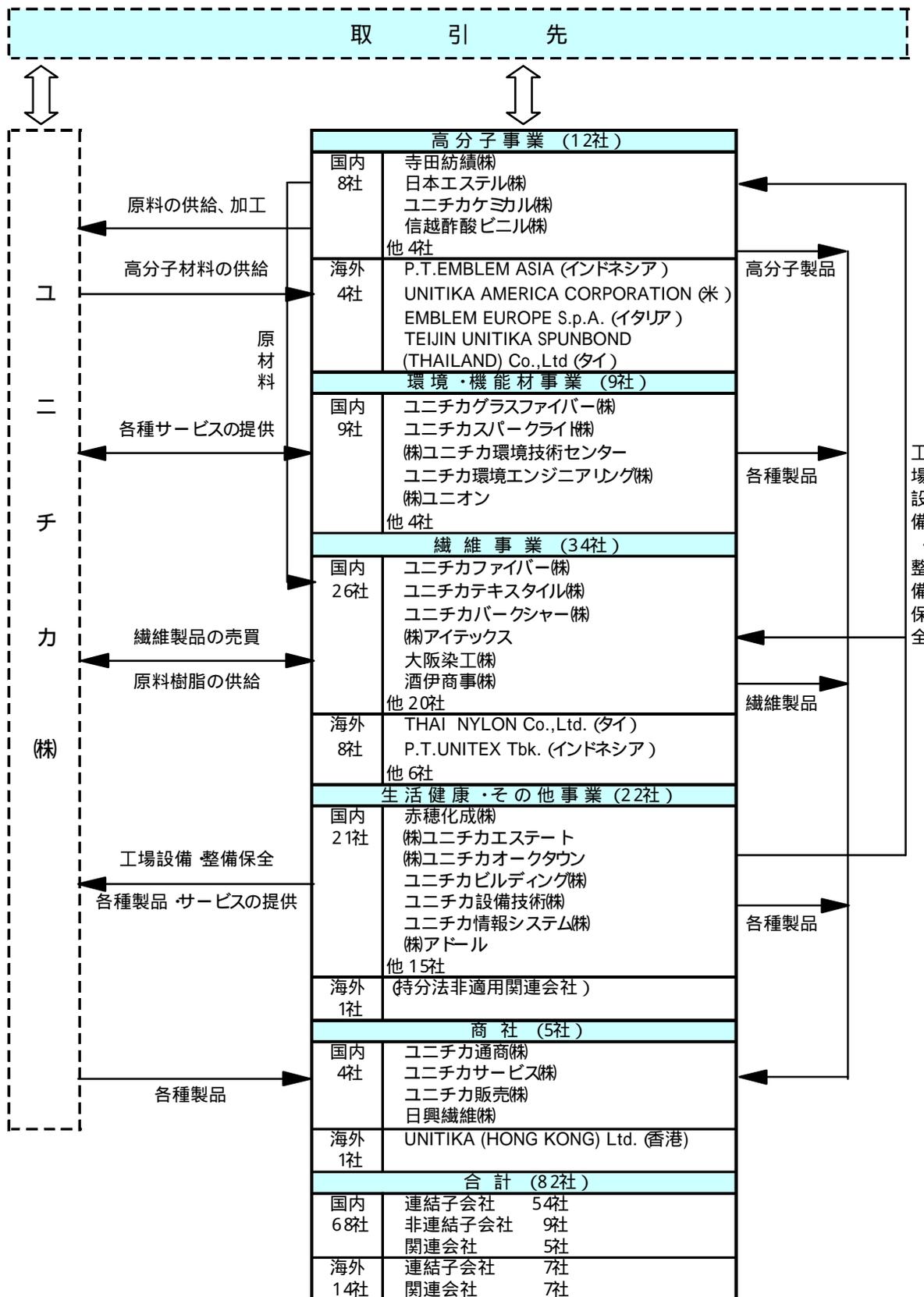
繊維事業： 当社及び連結子会社であるユニチカファイバー(株)、ユニチカテキスタイル(株)は各種繊維(糸・綿・織編物等)の製造・販売を行っています。ユニチカファイバー(株)は、ユニチカ(株)及びエステル糸・綿の製造を行っている連結子会社である日本エステル(株)から素材の供給を受ける一方、酒伊商事(株)に対して原糸・原綿を供給し織編物の製造を委託、また、(株)アイテックスに対して織編物の染色・整理加工を委託しています。これらの製品の一部は、連結子会社であるユニチカ通商(株)を通じて販売しています。ユニチカテキスタイル(株)は大阪染工(株)に対して織編物の染色・整理加工を委託しており、これらの製品の一部は、連結子会社であるユニチカ通商(株)、ユニチカサービス(株)を通じて販売しています。

生活健康・その他事業： 当社は、メディカル事業として、医療材料・飼料原料・酵素・診断薬等の製造・販売を行っています。

連結子会社である赤穂化成(株)は海洋深層水及び無機薬品の製造・販売、ユニチカビルディング(株)は賃貸ビルの賃貸管理業、(株)ユニチカエステートはマンションの企画・販売等、ユニチカ設備技術(株)は各種プラントの設計施工及び整備保全、(株)ユニチカオークタウンはショッピングセンターの賃貸管理及び運営を行っています。

連結子会社であるユニチカ通商(株)他の商事会社については、上記各事業分野の製品を扱っています。

以上に述べた事業の概略図は、次のとおりです。



(注 1) 連結子会社である寺田紡績(株)は、大証 2部 に上場しております。
 (注 2) 商社など複数の事業分野において事業を行っている会社は、「事業の種類別セグメント情報」においては、取扱製品に対応したセグメントに含んで表示しています。

経営方針

(1) 経営の基本方針

当社は、「暮らしと技術を結ぶことによって社会に貢献する」ことを経営の理念とし、「顧客の信頼と期待にスピーディーに応えるユニークで存在感のある企業」を目指しております。取引先各位の信頼と期待にスピーディーに応えるとともに、独自の技術力に基づいた価値ある製品・サービスの開発・提供を通じて社会に貢献することこそ当社の企業価値を高め、ひいては株主各位に貢献できるものであると確信しております。

(2) 利益配分に関する基本方針

当社は、株主への配当は収益状況に対応させることを基本としつつも、長期的な株主利益の確保のためには財務体質の改善が必要であり、内部留保の充実に勘案して決定する方針をとっております。

(3) 中長期的な経営戦略と取組みの状況

はじめに、重点事業の強化としては、高分子事業では、フィルム、スパンボンドを中心に高付加価値品の拡販に努めるとともに、スパンレース等の生産力の増強を行い、販売・収益力の拡大を図ります。環境事業では、大型ごみ焼却施設や水処理設備の受注拡大を積極的に進めます。繊維事業では、黒字体質の定着に努めます。生活健康事業では、既存事業の拡大を図りつつ、飼料原料等の事業収益力の早期強化に注力します。トウモロコシを原料とする生分解性材料「テラマック」は、フィルム、スパンボンド、繊維の3分野で順調に立ち上がり、引き続き拡大してまいります。

次に、経営体制の強化としては、意思決定・施策実行の迅速化を目的に平成12年4月から経営会議の廃止、執行役員制度の導入、取締役の少数化など経営体制の改革を実行し、さらに、事業グループごとのドメイン経営管理体制を導入しましたが、本年10月1日をもってグループの商事流通部門を統合するなど、グループ経営力の強化に取り組んでいます。

また、営業力の強化として、フィルム事業、スパンボンド事業など市場シェアの高い事業をはじめとして、営業組織ユーザー対応体制の見直しを行うとともに、コスト構造の改善として、各事業について本社・工場体制の見直しを実施したほか、繊維事業では産地との一体開発体制を強化するなどの効率化を実施しました。グループ強化の一環としては、管理・サービス機能を担う、ユニチカビジネスサービス(株)を本年4月に発足させ、今後、業務システムのネット化等を推進することで、グループ全体の機能の強化とコスト効率化を進める計画です。

当社は、中期経営2カ年計画『変革21』を引き続き着実に実行し、連結経営の強化に向けて、抜本的なグループ変革を実践してまいります。

経営成績

(1) 当中間期の概況

当上半期のわが国経済は、内需が低迷する中で米国経済の減速もあってデフレ傾向が強まり、一段と厳しい景況となりました。この中で、当社は、中期経営2カ年計画グループ・プログラム『変革21』を当期からスタートさせ、「高分子」「環境・機能材」「生活健康」など重点事業の更なる強化による収益力の向上に努めました。

この結果、当上半期における連結売上高は125,503百万円(前年同期比9,135百万円減)、連結経常利益は2,572百万円(前年同期比823百万円減)、連結中間純利益は790百万円(前年同期比351百万円減)となりました。退職給付費用等の増加により前年同期実績を下回りましたものの、グループあがりの事業収益力の強化及び経営体制の整備等により、期初計画を上回る利益をあげることができました。

事業別の状況は次のとおりです。

[高分子事業]

フィルム事業では、商品構成の高度化・営業力の強化・コストダウン等により収益力の強化に努めたこともあって、ナイロンフィルム「エンブレム」が堅調に推移しました。バリアタイプの複層および蒸着ナイロン、易引裂きナイロン等の差別化商品も市場に大きく浸透してまいりました。ポリエステルフィルム「エンブレット」は、一般工業用途は不調でしたが、食品包装用及び缶貼りフィルムは順調でした。また、易引裂き及び特殊加工品も販売を伸ばしました。海外では、「エンブレムアジア」「エンブレムヨーロッパ」の黒字体質が定着し、また国内でも関連会社等の加工体制の効率化を推進しました。スパンボンド事業では、国内では複合素材「エルベス」が新規用途を拡大し、スパンレース綿不織布「コットエース」が、化粧雑貨・衛材用途で順調な伸びを見せました。また海外ではタイ国の合併会社「タスコ」が黒字基盤を築きました。化成・機能樹脂事業は、厳しい市場環境から減収となりました。

この結果、高分子事業の売上高は、30,315百万円(前年同期比399百万円減)、営業利益は3,752百万円(前年同期比292百万円増)となりました。

[環境・機能材事業]

環境事業は、ガス化溶融炉を初受注するとともに、ダイオキシン恒久対策工事物件、一般廃棄物最終処分場浸出水処理施設などを順調に受注しました。環境関連の測定会社、メンテナンス会社等も堅調に推移しました。機能材事業では、活性炭繊維がたばこ臭除去用など新たな用途を拡大しました。IT不況の影響を受けたICガラスクロスは振るいませんでしたが、ゴミ焼却炉バグフィルター用ガラスクロスは、健闘しました。ガラスビーズ・反射材事業等も順調に業績を伸ばしました。

この結果、環境・機能材事業の売上高は、15,050百万円(前年同期比613百万円減)、営業利益は606百万円(前年同期比45百万円増)となりました。

[繊維事業]

産業資材用途は、比較的順調でしたが、衣料用途は、合成繊維・天然繊維とともに、国内外の消費の落ち込みや輸入増加等により厳しい状況に直面し、全体として減収を余儀なくされたものの、黒字基調を維持しました。このような厳しい市場環境の中で、ナイロン差別化商品では、軽量・保温性「マイクロアート」、抗菌性「バイオリナー」、吸放湿性「ハイグラ」等が衣料分野及び資材分野に販売を伸ばし、ポリエステル差別化商品では、ストレッチ素材「ゼットデン」、起毛調超極細糸「ミューフェス」等を衣料分野及び機能商品分野に展開いたしました。綿素材関係では、環境にやさしい新セルロース繊維リヨセルを基幹戦略商品として位置づけ、織物から二次製品までを含め多方面の展開を図りました。

この結果、繊維事業の売上高は、60,663百万円(前年同期比3,155百万円減)、営業利益は916百万円(前年同期比467百万円減)となりました。

[生活健康・その他事業]

メディカルは、償還価格の改定などもありましたが、抗血栓性カテーテルは健闘しました。飼料原料「コッコエース」も大幅に売上げを拡大しました。海洋深層水「天海の水」が順調に推移し、またマンション販売事業も業績を伸ばしました。

この結果、生活健康・その他事業の売上高は、19,473百万円(前年同期比4,967百万円減)、営業利益は2,123百万円(前年同期比196百万円増)となりました。

(2) 当中間期のキャッシュ・フローの状況**(営業活動によるキャッシュ・フロー)**

当中間期の営業活動によるキャッシュ・フローは、主としてエンジニアリング事業の季節要因による影響が大きかったことから売上債権が減少し、減価償却費と合わせたキャッシュ・イン・フローが、たな卸資産の増加と仕入債務の減少によるキャッシュ・アウト・フローを補い、10,252百万円の資金の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間期の投資活動によるキャッシュ・フローは、主として設備投資に伴う支出により、2,778百万円の資金の減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間期の財務活動によるキャッシュ・フローは、短期及び長期の資金調達を一時的に増やした結果、7,239百万円の資金の増加となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の中間期末残高は、前期末に比べ14,802百万円増加し、47,500百万円となりました。

通 期 の 見 通 し

わが国経済は、景気の低迷による雇用・信用不安が更に拡大する可能性や、米国景気の大規模な減速による影響などから、一段と厳しい状況となることが予想されます。当社は、引き続き高付加価値商品展開の強化、新規用途の拡販を推進するとともに、グリープ・トータルでの一段の効率的な事業運営に努め、競争力の強化を図ってまいります。

平成14年3月期の見通しにつきましては、連結売上高は262,000百万円、連結経常利益は6,000百万円、連結当期純利益につきましては、2,500百万円を見込んでおります。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (13.4.1～13.9.30)	前中間期 (12.4.1～12.9.30)	増 減	前 期 (12.4.1～13.3.31)
売 上 高	125,503	134,639	9,135	277,108
売 上 原 価	99,525	107,514	7,988	220,441
売 上 総 利 益	25,977	27,125	1,147	56,666
販売費及び一般管理費	21,563	21,523	40	43,002
営 業 利 益	4,414	5,601	1,187	13,664
営 業 外 収 益				
受 取 利 息	51	86	34	169
受 取 配 当 金	111	112	1	194
有 価 証 券 売 却 益	-	150	150	157
年 金 信 託 設 定 益	511	-	511	-
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	66	268	201	193
そ の 他	1,123	1,432	308	2,028
営 業 外 収 益 計	1,864	2,050	186	2,743
営 業 外 費 用				
支 払 利 息	2,656	3,051	395	5,930
そ の 他	1,049	1,204	155	2,307
営 業 外 費 用 計	3,706	4,256	550	8,238
経 常 利 益	2,572	3,395	823	8,169
特 別 利 益				
固 定 資 産 売 却 益	24	21	2	3,548
投 資 有 価 証 券 売 却 益	-	902	902	1,468
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	-	18	18	32
そ の 他	73	0	72	87
特 別 利 益 計	98	943	845	5,136
特 別 損 失				
固 定 資 産 処 分 損	427	216	210	924
投 資 有 価 証 券 売 却 損	-	439	439	485
投 資 有 価 証 券 評 価 損	32	664	631	942
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	164	41	123	1,345
特 別 退 職 金	73	207	134	489
そ の 他	986	809	177	3,353
特 別 損 失 計	1,684	2,378	694	7,540
税金等調整前中間(当期)純利益	985	1,960	974	5,765
法人税、住民税及び事業税	949	1,272	322	2,217
法人税等調整額	805	594	211	427
少数株主利益	52	140	88	255
中間(当期)純利益	790	1,142	351	3,719

[注記事項は別紙参照]

中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (13.4.1~13.9.30)	前中間期 (12.4.1~12.9.30)	前 期 (12.4.1~13.3.31)
欠 損 金 期 首 残 高	18,248	21,952	21,952
欠 損 金 増 加 高			
役 員 賞 与	51	15	15
連結子会社合併に伴う			
欠 損 金 増 加 高	1,307	-	-
持分法適用会社減少に伴う			
欠 損 金 増 加 高	-	0	0
欠 損 金 増 加 高 合 計	1,358	15	15
中間(当期)純利益	790	1,142	3,719
欠損金中間期末(期末)残高	18,817	20,825	18,248

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (13.9.30現在)	前 期 (13.3.31現在)	増 減	前中間期 (12.9.30現在)
(資産の部)				
流動資産				
現金及び預金	50,795	37,440	13,354	39,454
受取手形及び売掛金	71,218	84,781	13,562	77,028
有価証券	216	296	79	396
たな卸資産	69,491	68,067	1,423	70,953
繰延税金資産	1,336	1,420	84	1,811
その他の	5,956	6,973	1,017	7,275
貸倒引当金	254	301	46	297
流動資産合計	198,760	198,678	81	196,621
固定資産				
(1)有形固定資産				
建物及び構築物	37,034	38,493	1,458	40,224
機械装置及び運搬具	34,306	35,590	1,284	37,973
工具器具及び備品	1,772	1,842	70	2,049
土地	62,067	61,489	577	63,754
建設仮勘定	5,335	3,946	1,389	4,113
有形固定資産合計	140,516	141,361	845	148,114
(2)無形固定資産				
施設利用権等	871	880	9	866
連結調整勘定	38	77	38	135
無形固定資産合計	910	958	47	1,002
(3)投資その他の資産				
投資有価証券	18,931	26,157	7,225	25,767
出資金	757	715	42	833
長期貸付金	176	1,864	1,687	1,479
繰延税金資産	8,716	4,345	4,370	4,141
その他の	7,164	7,497	333	8,262
貸倒引当金	2,890	4,526	1,636	3,504
投資その他の資産合計	32,856	36,053	3,196	36,979
固定資産合計	174,283	178,373	4,090	186,095
繰延資産				
社債発行差金	68	91	22	130
繰延資産合計	68	91	22	130
資産合計	373,112	377,143	4,031	382,848

[注記事項は別紙参照]

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (13.9.30現在)	前 期 (13.3.31現在)	増 減	前中間期 (12.9.30現在)
(負債の部)				
流動負債				
支払手形及び買掛金	46,094	52,075	5,980	48,136
短期借入金	107,908	103,510	4,397	125,135
一年以内返済予定長期借入金	74,530	56,116	18,413	55,941
一年以内償還予定社債	100	100	-	-
未払法人税等	997	1,240	243	1,304
賞与引当金	2,779	2,730	49	2,876
完成工事補償引当金	116	258	141	293
その他の	21,148	20,556	592	21,014
流動負債合計	253,676	236,589	17,087	254,702
固定負債				
社債	2,200	2,200	-	2,100
長期借入金	92,259	107,629	15,369	97,638
再評価に係る繰延税金負債	2,342	2,342	-	2,342
退職給付引当金	8,093	8,553	460	8,657
役員退職慰労引当金	907	996	89	963
その他の	6,026	5,913	112	6,103
固定負債合計	111,829	127,636	15,806	117,806
負債合計	365,506	364,225	1,281	372,508
(少数株主持分)				
少数株主持分	4,481	4,478	2	4,803
(資本の部)				
資本金	23,798	23,798	-	23,798
資本準備金	1,661	1,590	70	1,590
再評価差額金	3,216	3,216	-	2,965
欠損金	18,817	18,248	568	20,825
その他有価証券評価差額金	4,809	-	4,809	-
為替換算調整勘定	1,924	1,916	7	1,992
	3,124	8,440	5,315	5,536
自己株式	0	0	0	0
資本合計	3,124	8,440	5,315	5,536
負債、少数株主持分及び 資本合計	373,112	377,143	4,031	382,848

[注記事項は別紙参照]

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (13.4.1～13.9.30)	前中間期 (12.4.1～12.9.30)	前 期 (12.4.1～13.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	985	1,960	5,765
減価償却費	5,373	6,230	12,567
貸倒引当金の増減額	64	61	1,086
支払利息	2,656	3,051	5,930
投資有価証券評価損	32	664	942
投資有価証券及び有価証券売却損益	13	613	1,139
売上債権の増減額	13,583	478	7,246
たな卸資産の増減額	3,649	2,078	1,651
仕入債務の増減額	6,069	390	3,728
その他	411	588	3,655
小計	13,273	9,952	19,631
利息及び配当金の受取額	169	226	442
利息の支払額	2,440	3,077	5,938
法人税等の支払額	749	1,509	3,095
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,252	5,591	11,039
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の純増減額	1,450	1,241	1,082
投資有価証券及び有価証券の取得による支出	1,866	228	1,012
投資有価証券及び有価証券の売却による収入	256	1,271	2,511
有形固定資産の取得による支出	3,373	2,628	5,671
有形固定資産の売却による収入	730	441	4,823
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	-	626
その他	24	335	353
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,778	2,049	549
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額	4,429	1,492	22,402
長期借入による収入	28,466	20,571	66,418
長期借入金の返済による支出	25,637	27,692	63,221
社債の発行による収入	-	-	200
その他	18	40	131
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,239	8,655	19,137
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	4	65
現金及び現金同等物の増減額	14,722	5,108	7,482
現金及び現金同等物の期首残高	32,697	40,209	40,209
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	79	-	-
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	28	29
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	47,500	35,072	32,697

[注記事項は別紙参照]

中間連結財務諸表作成のための基本となる事項

1. 連結の範囲に関する事項

中間期末現在の連結子会社は61社（主要会社：ユニチカファイバー(株)、日本エステル(株)、ユニチカテキスタイル(株)、ユニチカグラスファイバー(株)、ユニチカケミカル(株)、ユニチカ通商(株)他）で、非連結子会社は9社であります。非連結子会社9社はいずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、中間純損益及び剰余金はいずれも中間連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていません。なお、連結子会社の異動は非連結子会社の新規連結等による増加2社（ユニチカビジネスサービス(株)（旧(株)エーテック）他）と、連結子会社の合併による減少1社（ユニチカビルディング(株)）であります。

2. 持分法の適用に関する事項

非連結子会社9社（主要会社：(株)赤穂ユニテックサービス、ユニチカ宇治興産(株)他）及び関連会社12社のうち11社（主要会社：信越酢酸ビニル(株)、(株)アドール他）に対する投資については、持分法を適用しています。なお、持分法適用会社の異動は非連結子会社の新規連結による減少1社（ユニチカビジネスサービス(株)（旧(株)エーテック））であります。

3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社のうち、タイナイロン(株)、ユニチカアメリカ(株)、ユニトラ(株)、(株)エンプレムアジア、(有)ユニチカブラジル及びプラスコット(有)の中間決算日は6月30日、また、ユニチカ(香港)(株)の中間決算日は8月31日ですが、中間連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の中間財務諸表を使用し、当中間連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産：主として移動平均法による原価法によっています。

有価証券：

 その他有価証券

 時価のあるもの……中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算出）によっています。

 時価のないもの……移動平均法による原価法によっています。

デリバティブ：時価法によっています。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

有形固定資産：主として定率法によっています。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金：債権の貸倒れによる損失に充てるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

賞与引当金：従業員に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上しています。

完成工事補償引当金：完成工事の担保責任に基づく無償の補修費に充てるため、完成工事高に過去の補修実績割合を乗じた金額を計上しています。なお、一部の連結子会社は、支出時の費用として処理しています。

退職給付引当金：従業員の退職給付に充てるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間期末において発生していると認められる額を計上しています。なお、会計基準変更時差異については、15年にわたり均等額を費用処理しています。ただし、上場会社である連結子会社1社は、5年にわたり均等額を費用処理しています。

 過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間の年数（8～13年）による定額法により処理しています。

 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間の年数（6～11年）による定額法により翌期から費用処理することとしています。

役員退職慰労引当金：役員（執行役員を含む）の退任により支払う退職慰労金に充てるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しています。

(4) 重要なリース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しています。なお、振当処理の要件を満たす為替予約については振当処理を、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理を採用しています。

(6) 消費税等の処理

税抜方式によっています。

5. 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。

6. 追加情報

（金融商品会計）

当中間期からその他有価証券のうち時価のあるものの評価方法について、金融商品に係る会計基準（「金融商品に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会 平成11年1月22日））を適用しています。この結果、その他有価証券評価差額金 4,809百万円が計上されています。

注 記 事 項

	当中間期	前 期	前中間期
1.有形固定資産の減価償却累計額	262,702 百万円	257,536 百万円	255,390 百万円
2.受取手形割引高	3,825 百万円	3,721 百万円	3,072 百万円
3.保証債務	3,710 百万円	4,177 百万円	4,404 百万円
4.現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係			
	当中間期	前 期	前中間期
現金及び預金勘定	50,795 百万円	37,440 百万円	39,454 百万円
有価証券勘定	- 百万円	- 百万円	396 百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金等	3,294 百万円	4,742 百万円	4,674 百万円
株式及び償還期限が3ヶ月を超える債券等	- 百万円	- 百万円	104 百万円
現金及び現金同等物	47,500 百万円	32,697 百万円	35,072 百万円

5. 中間期末日満期手形

中間期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしています。なお、当中間期の末日が金融機関の休日のため、次の中間期末日満期手形が中間期末残高に含まれています。

受 取 手 形	3,111 百万円
支 払 手 形	2,480 百万円
流動負債その他	90 百万円

(リース取引に関する事項)

1. 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	当中間期末	前 期 末	前中間期末
取得価額相当額	7,455 百万円	7,280 百万円	7,445 百万円
減価償却累計額相当額	4,661 百万円	4,263 百万円	4,134 百万円
期末残高相当額	2,793 百万円	3,017 百万円	3,310 百万円

(注) 上記金額のうち、主なものは「機械及び装置」であります。

未経過リース料期末残高相当額

	当中間期末	前 期 末	前中間期末
1 年 内	904 百万円	1,000 百万円	889 百万円
1 年 超	1,889 百万円	2,016 百万円	2,421 百万円
合 計	2,793 百万円	3,017 百万円	3,310 百万円

(注) 取得価額相当額及び未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しています。

支払リース料及び減価償却費相当額

	当中間期	前 期	前中間期
支払リース料	561 百万円	1,045 百万円	545 百万円
減価償却費相当額	561 百万円	1,045 百万円	545 百万円

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

2. オペレーティング・リース取引

該当事項なし

(セグメント情報)

1. 事業の種類別セグメント情報

当中間期 (13.4.1 ~ 13.9.30)

(単位: 百万円)

	高分子 事業	環境・ 機能材 事業	織 維 事 業	生活健康 ・その他 事業	計	消去又は 全社	連 結
売上高及び営業損益							
. 売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	30,315	15,050	60,663	19,473	125,503	-	125,503
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,950	156	659	1,254	5,021	(5,021)	-
計	33,266	15,207	61,323	20,728	130,524	(5,021)	125,503
. 営業費用	29,514	14,601	60,406	18,604	123,125	(2,036)	121,089
営業利益	3,752	606	916	2,123	7,399	(2,984)	4,414

(注) 営業費用のうち、消去又は全社に含めた配賦不能営業費用は3,097百万円であり、その主なものは勤務費用を除く退職給付費用であります。

前中間期 (12.4.1 ~ 12.9.30)

(単位: 百万円)

	高分子 事業	環境・ 機能材 事業	織 維 事 業	生活健康 ・その他 事業	計	消去又は 全社	連 結
売上高及び営業損益							
. 売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	30,715	15,664	63,819	24,440	134,639	-	134,639
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,214	125	812	1,117	5,270	(5,270)	-
計	33,929	15,789	64,631	25,558	139,909	(5,270)	134,639
. 営業費用	30,469	15,228	63,247	23,630	132,576	(3,538)	129,037
営業利益	3,459	560	1,384	1,927	7,332	(1,731)	5,601

(注) 営業費用のうち、消去又は全社に含めた配賦不能営業費用は1,753百万円であり、その主なものは勤務費用を除く退職給付費用であります。

前 期 (12.4.1 ~ 13.3.31)

	高分子 事業	環境・ 機能材 事業	織 維 事 業	生活健康 ・その他 事業	計	消去又は 全社	連 結
売上高及び営業損益							
. 売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	65,910	38,315	127,182	45,699	277,108	-	277,108
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,415	247	1,636	2,222	10,522	(10,522)	-
計	72,325	38,562	128,819	47,922	287,630	(10,522)	277,108
. 営業費用	65,129	35,121	125,775	44,428	270,454	(7,011)	263,443
営業利益	7,195	3,441	3,043	3,494	17,175	(3,510)	13,664

(注) 営業費用のうち、消去又は全社に含めた配賦不能営業費用は3,611百万円であり、その主なものは勤務費用を除く退職給付費用であります。

(事業区分の変更)

従来、「繊維」「プラスチック・化成品」「エンジニアリング・建設・不動産」「その他」に区分していましたが、中長期経営戦略のもと連結経営体制の再構築を行ったことに伴い、事業の種類別セグメント情報の有用性を高め、当グループの事業状況をより適切に表示するため、前期から、「高分子」「環境・機能材」「繊維」「生活健康・その他」に区分することとしています。なお、従来の事業区分によった場合の前中間期の事業の種類別セグメント情報は次のとおりであります。

前中間期(12.4.1～12.9.30) - 旧事業区分 -

(単位：百万円)

	織 事	維 業	フ ^ラ スチック 化 成 品 事 業	エ ^ン ジニア ^リ ング 建 設 不 動 産 事 業	そ の 他 事 業	計	消 去 又 は 全 社	連 結
売上高及び営業損益								
・売上高								
(1)外部顧客に対する売上高	65,649	29,377	18,713	20,898	134,639	-	134,639	
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,127	834	906	231	3,100	(3,100)	-	
計	66,776	30,212	19,619	21,130	137,739	(3,100)	134,639	
・営業費用	65,608	27,921	18,937	19,361	131,829	(2,791)	129,037	
営業利益	1,168	2,290	681	1,769	5,909	(308)	5,601	

(注) 営業費用のうち、消去又は全社に含めた配賦不能営業費用は376百万円であり、その主なものは親会社の研究開発に係る費用の一部であります。

2. 所在地別セグメント情報

本邦の売上高の金額は、全セグメントの売上高合計(セグメント間の内部売上高を含む。)に占める割合が90%超であるため、記載を省略しています。

3. 海外売上高

(単位：百万円)

	当中間期	前中間期	前 期
海外売上高	15,104	14,326	28,487
連結売上高	125,503	134,639	277,108
連結売上高に占める 海外売上高の割合	12.0%	10.6%	10.2%

(注) 連結売上高に占める割合が10%以上のセグメントがないため、海外売上高合計のみ記載しています。

有 価 証 券

当中間期（13.9.30 現在）

1. その他有価証券で時価のあるもの

（単位：百万円）

種 類	取 得 原 価	中間連結貸借 対照表計上額	評価損益
株 式	21,028	12,881	8,146
債 券			
国債・地方債等	24	24	0
社 債	13	13	0
そ の 他	73	73	0
そ の 他	562	361	200
合 計	21,701	13,355	8,346

2. 時価評価されていない主な有価証券の内容及び中間連結貸借対照表計上額

その他有価証券

非上場株式(店頭売買株式を除く) 1,019 百万円

前中間期（12.9.30 現在）

時価のない有価証券の内容及び中間連結貸借対照表計上額

その他有価証券

非上場株式(店頭売買株式を除く) 1,023 百万円

マネー・マネジメント・ファンド 292 百万円

前 期（13.3.31 現在）

時価のない有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額

その他有価証券

非上場株式(店頭売買株式を除く) 1,012 百万円

マネー・マネジメント・ファンド 222 百万円

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益の状況

当中間期（13.9.30 現在）

該当ありません。

（注）ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いています。

前中間期（12.9.30 現在）

該当ありません。

（注）ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いています。

前 期（13.3.31 現在）

該当ありません。

（注）ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いています。

平成14年3月期 中間決算短信 補足資料(連・単共通)

1.業績

(百万円)

			売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	12/3	年間	293,136	12,694	7,622	2,871
	12/9	半期	134,639	5,601	3,395	1,142
	13/3	年間	277,108	13,664	8,169	3,719
	13/9	半期	125,503	4,414	2,572	790
	14/3	年間(予想)	262,000	11,000	6,000	2,500
単体	12/3	年間	134,126	4,259	3,507	555
	12/9	半期	47,155	1,315	1,656	629
	13/3	年間	100,984	4,857	4,303	710
	13/9	半期	45,781	1,370	1,682	560
	14/3	年間(予想)	102,000	3,200	3,000	600
連単倍率	12/3	年間	2.19	2.98	2.17	5.17
	12/9	半期	2.86	4.26	2.05	1.82
	13/3	年間	2.74	2.81	1.90	5.24
	13/9	半期	2.74	3.22	1.53	1.41
	14/3	年間(予想)	2.57	3.44	2.00	4.17

2.設備投資・減価償却費(有形固定資産)

(百万円)

		設備投資		減価償却費	
		連結	単体	連結	単体
12/3	年間	8,928	4,881	13,799	7,259
12/9	半期	3,311	1,472	6,146	3,153
13/3	年間	6,360	3,142	12,398	6,439
13/9	半期	4,630	2,858	5,289	2,714

3.研究開発費

(百万円)

		研究開発費	
		連結	単体
12/3	年間	4,525	3,812
12/9	半期	1,847	1,526
13/3	年間	3,589	2,950
13/9	半期	1,733	1,388

4.有利子負債・金融収支

(百万円)

		有利子負債(期末)		金融収支	
		連結	単体	連結	単体
12/3	年間	293,476	188,056	6,326	3,302
12/9	半期	283,889	183,195	2,852	639
13/3	年間	273,277	174,904	5,565	1,552
13/9	半期	280,823	183,808	2,493	790

5.キャッシュ・フロー(連結)

(百万円)

		営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物の 期末残高
12/3	年間	32,103	4,701	24,044	40,209
12/9	半期	5,591	2,049	8,655	35,072
13/3	年間	11,039	549	19,137	32,697
13/9	半期	10,252	2,778	7,239	47,500

6.セグメント情報(連結)

(百万円)

		高分子	環境 機能材	繊維	生活健康 他	消去 全社	連結
12/ 3	外部売上高	59,543	34,853	133,728	65,012		293,136
	構成比(%)	20.3	11.9	45.6	22.2		100.0
	営業利益	6,633	2,539	1,216	3,146	841	12,694
	構成比(%)	52.3	20.0	9.6	24.8	6.6	100.0
12/ 9	外部売上高	30,715	15,664	63,819	24,440		134,639
	構成比(%)	22.8	11.6	47.4	18.2		100.0
	営業利益	3,459	560	1,384	1,927	1,731	5,601
	構成比(%)	61.8	10.0	24.7	34.4	30.9	100.0
13/ 3	外部売上高	65,910	38,315	127,182	45,699		277,108
	構成比(%)	23.8	13.8	45.9	16.5		100.0
	営業利益	7,195	3,441	3,043	3,494	3,510	13,664
	構成比(%)	52.7	25.2	22.3	25.6	25.7	100.0
13/ 9	外部売上高	30,315	15,050	60,663	19,473		125,503
	構成比(%)	24.2	12.0	48.3	15.5		100.0
	営業利益	3,752	606	916	2,123	2,984	4,414
	構成比(%)	85.0	13.7	20.8	48.1	67.6	100.0
14/ 3 (予想)	外部売上高	62,500	39,500	120,500	39,500		262,000
	構成比(%)	23.9	15.1	46.0	15.1		100.0
	営業利益	7,600	2,800	2,100	4,500	6,000	11,000
	構成比(%)	69.1	25.5	19.1	40.9	54.5	100.0

7.人員

(人)

	連結	単体
12/ 3	7,987	1,718
12/ 9	7,641	1,519
13/ 3	7,184	1,484
13/ 9	6,866	1,387